

第3学年総合的な学習の時間

「グリーンタイム」学習活動案

日時 平成17年10月 5日(水) 2校時
児童 第3学年 男5名 女4名 計9名
指導者 千葉 裕子

1 単元名 「おいしいりんごを育てよう」

2 単元のねらい

おいしいりんごをつくるためのりんご農家の工夫や努力に関心をもち、意欲的に調べようとするができる。(発見する力)

おいしいりんごを育てるための工夫や努力について、農家の人に聞いたり友達と協力し活動しながら意欲的に探究し続けることができる。(追究する力)

おいしいりんごを作るひみつについて、様々な表現の方法を工夫して、自分の思いや考えを表現し、効果的に伝えることができる。(表現する力)

地域の方や大野木場小学校の友達にも分かってもらうように、りんご作りについて調べたことをまとめたり、探究・調査活動でがんばったことを上小フェスティバルや試食会で発表したり、手紙などで伝えることができる。(生き方を考える力)

3 単元について

(1) 児童について

児童は、これまで生活科であさがおやサツマイモなどを育てる体験を通し、成長した野菜を収穫し、みんなで収穫の喜びを味わうことも体験している。また、3年生の理科の学習では、モンシロチョウの成長の様子を観察するときには、自分の家のキャベツ畑を見に行き、たまごや幼虫を探し、学校へと持ってきた児童もいた。モンシロチョウが誕生したときには、みんなで誕生を喜び、外へ放してやった。

りんご作りについては、3年生での総合的な学習に向けて、2年生の3月に生活科の授業で小岩正助さんのりんご園へ剪定作業の見学に行っている。3年生の5月には摘花作業の仕方を教えてもらいながら実際に体験することができた。りんごの花を初めて見たという子どもがほとんどで「きれいだな。」と喜んでいて、摘花して取った花を学校に持ち帰り、押し花にした。また、今年は例年より寒いため花の開花が遅く、受粉のための蜂が飛んでいないということから、人工受粉の作業のお手伝いをさせていただいた。これも初めての体験で子どもたちは興味関心をもって活動することができた。

今年も小岩さんから代々受け継がれてきた一本のりんごの木を「3年生の木」としてお借りすることになった。子どもたちは、自分たちでりんごを育てる作業に、意欲的に取り組んでいるところである。7月には、3年生のりんごの木に看板をつけ、自分たちのりんごの木だという実感をもったようだ。また、摘果作業も体験し、りんごを大きく実らせるための作業であることを確認できた。5月に人工受粉を体験した木にもりんごの実がなっているのを見て、子どもたちは、実がなるしくみについても自分の目を通して確認することができた。自分たち「3年生の木」のふじは、11月が収穫期のため、これから、葉つみ作業や玉まわし作業を行わなければならない。そこで、11月の収穫がうまくいくようにと、早生品種の「つがる」で葉つみや玉まわし、収穫の体験をさせてもらった。これからは、11月の「3年生の木」のりんごの収穫を迎えるために自分たちでできる準備や作業を行っていききたい。

また、りんごの収穫を無事に終えて、代々受け継がれてきているりんごの「3年生の木」を次の3年生にバトンタッチしていきたいと考えている。

(2) 単元の構想

りんごは、子どもたちにとって身近なくだものでみんな好んで食べている。また、本校では、校内水泳記録会やロードレース大会の参加賞としてりんごを頂くことも恒例となっている。また、長崎県の大野木場小学校との交流でもりんごを送っている。

小岩さんに貸して頂いた一本のりんごの木「ふじ」を剪定作業から収穫するまでの作業を自分たちで体験しながら、りんご作りについての手順や自然を相手とする農家の方の苦勞を聞いたり、おいしいりんごができるまでの過程を知ることができた。また、社会科のスーパーマーケットの見学学習と関連付けて、収穫したりんごについて生産者から消費者へ手渡っていく過程についても学習した。また、地域の産直施設の「旬菜館」で自分たちが作ったりんごを地域の方たちにも試食してもらいたいと考え、旬菜館にも見学に行き、品物がお店に並ぶまでの流れを聞くことができた。また、試食をしてもらうための場所を貸していただけるようお願いしたところ、快く引き受けてくださり、子どもたちは、りんごの試食会に向けてはりきっている。11月に収穫を迎える自分たちの木「ふじ」のりんごが無事に収穫でき、たくさんの人たちに3年生が育てたりんごを味わってもらい、りんごの試食会を通して人とのつながりが広がってくれればと考えている。

(3) 活動及び評価計画 (5 0 時間)

活動計画	評価規準			
	発見する力	追究する力	表現する力	生き方を考える力
<p>[第 1 次] 「りんご栽培を知ろう」 2 0 時間</p> <p>・りんご農家をたずね、おいしいりんごを育てるためには、どんな仕事があるかをつかむ。</p>				
課題設定	・りんごを試食しよう(2) りんごを試食して感想を話し合い、おいしいりんごを育てるためには、たくさんさんの仕事をしなければならないことを「りんごごよみ」からつかむ。	おいしいりんごを育てるための剪定から収穫までの様々な仕事があることを発見できる。		
定場面	・りんご農家をたずねよう(18) りんご農家の剪定、摘果、葉つみ、消毒、収穫等のりんご栽培のための仕事を体験する。一つ一つの体験をまとめて発表しあうことで互いに学び取ったものを確認しあう。	おいしいりんごを育てるためには様々な作業があることを実感し、課題につなげていく。	おいしいりんごを作るために工夫していることなどを農家の人に質問したり調べたりしている。	
<p>[第 2 次] 「おいしいりんごのひみつをさぐり、そだてよう」 2 0 時間</p> <p>・りんご栽培についての体験活動をもとに自分たちでできる作業を行いながら、りんごについて自分が興味を抱いたことについて質問したり調べたりして、研究を深めていく。</p>				
課題追究場面	・どんなりんごのひみつがあるか(3) 調べてみたいりんご栽培にかかわる仕事や、りんごのおいしさのひみつについて課題解決のための準備活動を行う。	見通しを持ちながら何をどのように調べればよいか決め、進んで準備したり調べたりしようとしている。	りんごを育てていくために自分たちでできることを実際に活動していく準備をする。	
	・りんごのひみつを知らせよう(17) おいしいりんごを育てるためのひみつや自分たちの活動を進め、わかったことを家の人や地域の方にわかりやすい発表ができるような発表の仕方を工夫する。 本時 1 0 / 1 7	自分たちでできることを考え、活動を進めながら、りんごのひみつについて家の人や地域の人たちに伝えようとしている。	よりわかりやすい発表を目指して足りなかった資料などを整えている。	りんご農家の方の工夫や努力について見たことや聞いたことを自分なりに生活の中に生かそうとしている。
<p>[第 3 次] 「おいしいりんごのひみつを伝えよう(発表会)」 1 0 時間</p> <p>・おいしいりんごのひみつを通し上折壁の農業や自然にも目を向けながら、上折壁の良さ、自慢を広めていく。</p> <p>・自分たちが育てたりんごを試食してもらおう。</p>				
ふりかえり	・りんごのひみつを教えよう(2) 学校中の友達や地域の人たちにおいしいできるわけやりんご作りにおける作業などを発表会や上小フェスティバルを通し伝える。		聞く人がわかりやすいように工夫して発表する。	農園での体験を生かし、りんご栽培のための工夫やりんごのひみつについて表現し上折壁のよさにつなげる。
	・旬菜館で自分たちが育てたりんごを試食してもらおう。(6)		自分たちが育てたりんごがおいしいりんごかどうかを買い物客のみなさんに試食してもらおうとしている。	ポスターやチラシを作り自分たちが育てたりんごについて伝える。
の場面	・大野木場小に伝えよう(2) 上折壁のりんご自慢について、地域の農作物、自然などについて大野木場小に向けて発信する。(3年生が育てたりんごを大野木場小の3年生に送る。)	一本のりんごの木を育てたことを生かし、4年生の「ひこばえの森」の学習で興味をもって学習しようとしている。		りんごのひみつを中心に上折壁の良さを手紙などで伝える。
				おいしいりんごのひみつについて取り上げながら上折壁のよさと共に自然のすばらしさを絵や文などで表している。

4 本時の学習活動

(1) 活動名

おいしいりんごを試食してもらうための計画をたてよう (10 / 17時間)

(2) ねらい

3年生のりんごを試食してもらうためには、どのようなことを準備すればよいかを考え見通しをもつことができる。

(3) 評価規準と具体的評価規準

観点	評価規準 「評価方法」	具体的評価規準	支援を要する児童への 具体的手立て
発見する力	自分たちのりんごを試食してもらうために、どうすればよいか見通しをもって計画を立てることができる。 「観察」「カード」	自分たちのりんごを試食してもらうためにはどうすればよいかを考え、カードに書くことができる。	今まで自分たちがしてきたりんごの作業を振り返り、スーパーマーケットや産直施設を見学したことをから、品物を売るためのお店の工夫を思い出しカードに書かせる。

(4) 展開

段階		指導上の留意点 評価と 支援	準備物
つかむ (5)	1 本時の学習 3年生のりんごを試食してもらうための準備をしよう。 今までの活動を振り返る。 ・小岩さんのりんご園で体験したことを確認し、これからりんごの収穫をすることを再確認する。	本時の活動内容を確認し、今まで小岩さんのりんご園で体験したことを確認する。 ・3月の剪定作業、5月の摘花作業、7月の摘果作業について確認する。また、早生品種で体験した収穫についても確認する。	りんご暦
みとおす (30)	2 りんごを収穫してから試食してもらうために自分たちで準備できることを考え、出し合う。 ・試食してもらうために自分たちで準備できること(知らせる方法、りんごの出し方、味の答え方、その他など)のポイントを決めてカードに書く。 3 小岩さんに、自分たちが試食してもらうために考えたことを聞いてもらい、アドバイスをしてもらう。 ・小岩さんが実際にりんごを旬菜館にどのように出しているかを話してもらう。 ・小岩さんの話を聞いて、新たに準備しなければならない事などを確認する。	地域の人に試食してもらうための準備として、知らせる方法、りんごの出し方、味の答え方、その他のポイントを与える。 試食会を開くための準備として、スーパーマーケットの見学を思い出し、ポスターやチラシ、アンケートなど考えさせる。 準備するために必要な事を考えることができたか。「カード」 小岩さんの話を聞いて、りんごをお店に出すための準備として必要なことがわかったか。「観察」	カード (色分け)
ふりかえる (10)	4 今日の活動をふりかえる。 ・今日の自分の活動をふりかえりカードに記入する。 5 次時の活動を確認する。	今日の活動について自分は、どうだったかをふりかえる。 小岩さんから聞いた話を参考に、何から準備を始めたらいいか考えることを伝える。	ふりかえりカード

(5) 板書計画

今日の学習

・3年生のりんごを味わってもらうための
じゅんびをしよう。

<今までやったりんごの作業>

- ・せんてい作業
- ・てき花作業 人工じゅぶん
- ・てき果作業

<「つがる」で体けんした作業 >

- ・葉つみ作業 玉まわし
- ・収穫

< 試食会の準備 >

- | | | | |
|-------|------|--------|---------|
| 知らせる | りんご | 味のこたえ | その他 |
| ・チラシ | ・切って | ・アンケート | ・衛生的なこと |
| ・ポスター | ・1こ | | |
| ・呼びこみ | | | |